

ホスピスとナイチンゲールを学ぶ旅

訪問先：ロンドン

期間：2017年3月5日～3月10日

五十嵐和奏（看護学コース3年）、金平美咲（看護学コース3年）、高橋梨沙（看護学コース3年）、都竹美由紀（看護学コース3年）

渡航先での活動内容

North London Hospice 見学



緑に囲まれた静かな場所に



とても広くホテルのような個室

- ・施設の方やボランティアの方にお話を伺った。
- ・施設の中を案内していただいた。

ナイチンゲール博物館見学



ナイチンゲールの生家跡発見



- ・博物館の中を全てまわった。
- ・直筆の手紙や実際の音声も視聴した。
- ・隣接しているSt.Thomas' Hospitalの中も少し見学した。

Maggie's 見学



ゆったりとした
カウンセリングルーム



キッズルームも



- ・担当のElaineさんに、事前に送った質問に答えていただいた。
- ・施設内のほぼ全ての部屋を見せていただいた。

目的・評価

目的: 日本に比べ病院死の少ない欧州における終末期のケアについて学ぶ

評価: ホスピスでの活動や施設の様子を見学することで、ホスピスの病院との共通点や相違点を理解することができた。人生の最期のあり方を考えさせられた。

目的: 近代看護学の母であるフローレンス・ナイチンゲールの生涯と功績を学ぶ

評価: ツアーに参加することはできなかったが、ナイチンゲールの生涯や看護師としての功績について資料とともに改めて確認することができた。

目的: マギーズの活動内容や、がん患者さんにとって必要なことを学ぶ。東大病院の緩和ケアとの相違を学ぶ。

評価: 上記のことについて学べたことは多かった。マギーズの素敵な内装をみて、活動自体だけでなく建物の雰囲気というのも大事な要素だということも学べた。

グローバルな視点とは何か

- ・異なる文化に触れることで、日本の文化を再認識すること
- ・問題を広い視野でとらえること
- ・ただ比較して違いを見つけるだけでなく、なぜ違うのかも考えること
- ・知らない→分かった！を楽しむこと

将来の進路決定へどう影響したか

- ・今後の実習で患者さんと接していく上での糧になった。
- ・看護師として、病院だけでなくホスピスでも働いてみたいと思うようになった。
- ・海外出張断固拒否、の考えがなくなった。積極的に海外にも行きたい。

反省点

- ・研修前後のスケジュールにもう少し余裕をもたせ、もっとしっかり事前学習を行い研修に集中すべきであった。
- ・英語が堪能でない以上、はじめの挨拶や相槌の仕方、質問など些細なことにも事前に準備しておく必要性を感じた。
- ・そもそも日本のホスピスをよく知らなかった。

後輩へのアドバイス

- ・英語ができなくても何とかありますが、英語が分かるともっともっと楽しく、多くのことを学べただろうと思います。ですが現地の人は皆優しかったので必要以上に海外に恐怖心を持たなくて大丈夫だと思います。
- ・看護コースの人は、準備期間や体調の面から実習直後に行くことは避けたほうが良いと思います。

研修支援制度に望むこと

日本から出ようとしなかった人にとっても素晴らしい制度だと思います。来年度もぜひ行って欲しいです。ただ、研修である以上、志願動機の審査はもう少し厳しくしていただいても良かったかもしれません。